

平成 28 年度 事業 報告 書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

1 事業の成果

先進国の中でも日本は、格差の拡大が急速にすすんで、貧困層が短期間に増大し、こどもの6人に一人は相対的貧困というのが現状です。アジアの女性や子どもの自立支援に取り組みつつ、国内の支援事業に積極的に取り組んだ一年でした。

ボランティア・マネージャー・運営委員、みんなが「支援のチャリティショップ」WE ショップの運営に参画し協力して、支援のキャンペーンやショップのセールに取り組みました。「チャリティショップ」を前面に出したことで、海外・国内の支援事業への理解もすすみました。

港北区内で活動している団体やグループとの共同イベントへの参加・交流などから、新たな共同イベント開催につながり、また、大倉山店近隣の方のご好意で倉庫スペースを確保することができるなど、地域でともに活動する人のつながりを実感できた一年でした。

横浜市北部地域の WE21 ジャパン地域 NPO との共同企画で、映画会の上映、福島から出向いてのたらちね事務局長による報告会を実施するなど、連携・共同することで、単独では難しい企画にも取り組むことができました。

2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) ショップ事業

(1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 273 日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町 6 0- 1
- ・従事者人員 ショップマネージャー 2 人 ボランティアスタッフ 31 人（延べ 737 人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 3,030 件
- ・支出額 6,770,905 円

(2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 279 日
- ・場 所 横浜市港北区日吉 2- 1 2- 7
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3 人 ボランティアスタッフ 33 人(延べ 1,110 人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,231 件
- ・支出額 6,544,968 円

(3) ショップ事業の広報

- ・電柱掛け看板 日吉店 1月26日に設置
- ・生活クラブ情報誌への紹介記事掲載
- ・チラシ撒き枚数 大倉山店 1,160枚、日吉店 12,650枚

2) 環境活動 両店でガラス陶器のリサイクルなど行いました。

3) リメイク活動

3つのリメイクチームが、販売できなかった寄付品等を利用してリメイク活動を行いました。

II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）
収益からの支援額については 運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。

総支出額 2,904,847円

1) 海外支援 合計 1,442,088円

(1) 農村地域女性の自立支援を目的とする DRCSC の既存プロジェクトの追加活動

- ・実施団体 インド NGO DRCSC (Development Research Communication and Services Centre)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

インド西ベンガル州の南 24 パルガナス県(パトールプロティマ地区)及びハウラー県(バグナン地区)

両地域合わせて 10 村 28 の自助グループ、計およそ 400 人

- ・支援額 0円 (2015 年度支援金のプロジェクト)

- ・プロジェクトの概要

貧しい農村地域の女性たちが、自らの権利を知り、生活向上に関わる知識や技術を身につけ、健康的に暮らせるために、様々な研修の機会を提供しています。栽培技術や織物技術の習得、農産物販売の実践、気候変動に対応する天然資源管理など、ほぼ事業計画通りに目標を達成しており、女性たちの自立への道筋が見えてきたため、今年度で支援終了としました。

(2) タナオコミュニケーションにおける子どもの人身売買・児童労働防止事業

- ・実施団体 認定 NPO 法人 国際子ども権利センター (シーライツ)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオコミュニケーション地域に通う子どもの代表、各地域で組織された子どもクラブの子どもたち、教師、コミュニケーション評議会メンバー、村長、警察

コンボンロー郡評議会メンバー、教育局職員、および地域の子どもたちとその親

- ・支援額 459,400円 (収益金から 400,000円、預かり寄付金 59,400円)

- ・プロジェクトの概要

ベトナム国境に近いタナオコミュニケーションにおいて、児童労働や人身売買の被害から子どもたちを守るべく、子どもたちとその親双方にこどもの権利と教育の重要性について啓蒙活動を行っています。また被害にあった子どもが再び学校に戻れるよう支援しています。5 年計画の 3 年度。

また、カルチャー日吉のバザー収益 (6/18・19(土日)開催、59,400円) でタナオコミュニケーションの子どもたちにパソコンを贈りました。現地で活用されています。

(3) タナオコミュニティにおける生計向上支援によるエンパワーメント事業

・実施団体 カンボジア NGO CAE (The Center for Actions towards Equality)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオコミュニティ 345 世帯

・支援額 0 円 (2015 年度支援金のプロジェクト)

・プロジェクトの概要

農業組合の支援、農業技術指導、若い農家の人材育成支援、などを行なっています。全体的に事業は順調に成果をあげており、住民の事業参加数も増加し続けています。

期日内に事業申請書が届かなかったことから、昨年度の支援先検討の対象から外しました。

(4) コーヒーの森づくり・アグロフォレストリー栽培による災害に強いコミュニティづくり

・実施団体 フィリピン NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(CGN)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

フィリピンコーディリエラ山岳地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、
およびタビヨ集落 (38 世帯)

・支援額 400,000 円

・プロジェクトの概要

台風被害により森林が失われた地域に現金収入となる作物を混栽することで、森林再生・防災・生活向上の実現を目指しています。ベンゲット州バギオ市を中心に活動する NGO・CGN と共同で、アグロフォレストリーモデル農場の拡大、植樹地のメンテナンスを行いました。コーヒー豆を収穫できた受益者も現れ始めています。2016 年度はコロス集落とともに隣接するタビヨ集落への支援を行いました。

(5) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

・実施団体 NPO 法人日本イラク医療支援ネットワーク(JIM- NET)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民妊産婦、内戦負傷者、イラク国内避難民、福島の子どもたち

・支援額 482,688 円 (チョコ募金 450,000 円、店頭募金 32,688 円)

・プロジェクトの概要

イラクの小児がんの子どもたちへの医療支援、イラクに逃れてきたシリア難民、妊産婦、子ども、内戦負傷者への義足の支援活動、イラク難民キャンプでの支援活動、福島の子どもたちを放射能から守る活動を行っています。

・プロジェクトへの理解と協力を募るため、WE21 ジャパングループの他地域 NPO とともに今年度も「チョコ募金の集い」を行って広く活動をアピールしました。(詳細後述 21)

(6) ロヒンギャ難民緊急支援

・実施団体 国際協力 NGO ジュマ・ネット

・プロジェクトの対象となる地域及び人々 ミャンマー・バングラディッシュ国境付近の無国籍難民

・支援額 100,000 円

・プロジェクトの概要

かつて他国からミャンマー西部ラカイン州へ移住してきたアーリア系ムスリムの人たちが、ミャンマーから国籍を与えられず無国籍化し、排斥・弾圧を受けています。ロヒンギャと呼ばれる彼らは 2017 年

3月現在およそ7万7千人がバングラディッシュ東部の難民キャンプに逃げのびている状態で、国連も事態を注視しています。そのうちの妊産婦世帯などを収容している2ヶ所で、現地 NGO・APCD (Association for Pisciculture and Cattle Development)の協力により食糧配布しました。彼らに当面の生存に必要な食料を配布する緊急支援です。

2) 国内支援 合計 735,845 円

(1) 横浜山北リフレッシュプログラム

- ・実施団体 福島子ども・こらっせ神奈川
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 檜葉町・いわき周辺及び県外避難者の子どもたち
- ・支援額 71,902 円 (収益より 62,015 円、店頭募金 9,887 円)
- ・プロジェクトの概要

福島に暮らす子どもたちが放射能を気にすることなく野外で存分に活動できる機会を提供しています。2016年8月3日～5日に檜葉町・いわき周辺の子どものたち及び神奈川県在住の避難者小・中学生を神奈川県に招きました。

(2) ふくしまの子どもたちの心身のリフレッシュ事業

- ・実施団体 NPO 法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 福島の子どものたち
- ・支援額 51,553 円 (収益より 17,317 円、店頭募金 34,236 円)
- ・プロジェクトの概要

福島県外で実施されるリフレッシュプログラムに参加できない低年齢児や障がい児のために、福島県内でリフレッシュプログラムを実施し、子どもたちの感性や創造力を養う機会としました。

(3) 生活困窮者自立支援

- ・実施団体 寿支援者交流会 1 越冬闘争委員会、2 日本基督教団神奈川教区寿地区活動委員会 (寿地区センター)
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町地域並びに近隣居住者・横浜市内の野宿生活者
- ・支援額 1、越冬闘争委員会へ 20,000 円 2、寿地区センターへ 60,000 円
- ・プロジェクトの概要

寿町地域並びに近隣居住者、野宿生活者等を対象に、炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。

こうほくからは、支援金のほか、年間を通して衣類の寄付も行いバザーや炊き出し等に参加しました。地域への理解を深めるための学習会と訪問を行いました。

(4) 放射能測定室併設検診センター開設支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援金 320,295 円 (収益より 258,916 円、店頭募金 61,379 円)
- ・プロジェクトの概要

内部被曝の防止・軽減を目的として、食品に内在する放射線量を地域住民の求めに応じて計測し、そのデータを提供しています。また、人体の全身放射線量の測定とデータ提供も行っています。2015年4月

からはストロンチウム 90 やトリチウムの測定も開始しました。現在は、子どもたちの心身への影響を確認し、必要に応じてケアを行うための検診センターを開設すべく準備を進めています。

(5) 熊本地震震災被災者支援

- ・実施団体 社会福祉法人グリーンコープ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 熊本地震被災地域住民
- ・支援金 17,317 円 (すべて店頭募金)
- ・プロジェクトの概要

2016年4月14日に発生した、熊本県熊本地方を震源地とする地震の被災者への支援として、熊本地震救援カンパを送りました。

(6) 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持ってない神奈川県の子どもたち
- ・支援金 186,633 円 (収益より 171,680 円、店頭募金 14,953 円)
- ・プロジェクトの概要

虐待などの理由によって家族と共に暮らすことのできない18歳～20歳の子どもたちを対象に、居場所を提供しての生活支援(シェルター運営)や、法的支援、自立支援(自立援助ホームみずきの家の運営)、電話相談を行っています。子どもは18歳を過ぎると、児童福祉法では守られず、児童養護施設に入所できません。「子どもの貧困」が注目される中、子どもが貧困に陥ることのないよう、子ども自身の自立を支援する活動です。

(7) 映画「日本と原発」次作制作費支援

- ・実施団体 K プロジェクト
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 原発事故被災者を含む、一般市民
- ・支援金 8,145 円 (すべて会場での募金)
- ・プロジェクトの概要

原発事故の発生からその後の政府対応、日本の原子力政策とその問題点を伝えるドキュメンタリー映画を制作しています。全国各地で自主上映されており、こうほくでも「3.11を忘れない」ための集いを開いた際に地域で上映しました。

3) キャンペーン

(1) 貧困なくそうキャンペーン 子どもの貧困をテーマとし、10月11日～31日に実施しました。

(2) 「3.11を忘れない」キャンペーン

3.11を風化させないため、5月・7月・9月・11月・1月・3月のそれぞれ11日前後にキャンペーンを行いました。

(3) チョコ募金キャンペーン 12月12日～2月10日

1月21日(土)JIM-NET・2017チョコ募金の集いを港北区社会福祉協議会多目的研修室にてこうほく主催で開催しました。

4) フェアトレード品の販売による支援（金額は仕入れ額）

・ジンジャーティー	フィリピンゲットシュ州バパス・ダイコン・ラパダ	83,250 円
・カピタコ・コーヒー	フィリピンCGN	99,000 円
・オリーブ石鹸	パレスチナ・アシーラ女性組合	80,498 円
	計	262,748 円

III. この法人の事業の広報普及を図る事業

1) 会報の発行

6月(119号)と12月(120号)に会報を発行し、同時にホームページにも掲載しました。

活動内容をより詳しく伝えるため、ボランティアスタッフ向けに制作した既刊のスタッフニュースを会員にも9月と3月に発送配信しました。

2) ホームページの運営

ホームページを利用し、大倉山店・日吉店の企画案内や、報告会開催の告知等を随時行いました。

上記1)および2)への支出額合計 88,924 円

IV. 組織活動

1) 組織運営

(1) 会員 期首 58 名 期末 57 名 (入会 4 名、退会 5 名) 目標 60 人

(2) 運営委員会 毎月開催し、全員が役割を担い運営しました。代わりあえる組織づくりを構築しました。

(3) スタッフ会議 6月・11月・2月の3回開催しました。

(4) ショップ運営

ショップ体制 ショップマネージャー 大倉山店 2 人体制 日吉店 3→2→3 人体制

ボランティアスタッフ 大倉山店 28 人、 日吉店 33 人、 計 61 人

2) 地域との交流

(1) 地域のイベントに参加し、地域との交流を深め活動をアピールしました。

・らくらく市 (らくらく市実行委員会主催) 5月15日(日) 菊名地区センター前庭

・ふるさと港北ふれあい祭り 10月22日(土) 新横浜駅前公園

・日吉フェスタ (日吉エイジ実行委員会主催) 11月5日(土) 慶応大学日吉キャンパス内

・生活クラブ生協コモンズ大会でアピール 港北2月28日(火)、菊名3月3日(金)

・小さなまちの小さな平和展 (同実行委員会主催) 3月6日(月)~10日(金) ギャラリーかれん

・昨年に引き続き、カルチャー日吉からバザー収益寄付の申し出がありました。6月18日(土)・19日(日)に得た売上金 59,400 円を預かって民際支援活動の橋渡しをし、シーライツが支援するタナオコミュニケーションの子どもたちにパソコンを贈り、子どもたちに活用されました。

・コミバス市民の会のおでかけ体験ツアーに協力しました。10月18日催行のツアーコースに大倉山店が含まれ、10人ほどの見学者・お買い物客を受け入れました。

3) その他

・認定 NPO 法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。

・WE21 ジャングループのメンバーとして連携して活動し、3ケ年プロジェクト策定に参画しました。
また、横浜北エリア 6 地域の NPO と連携し、9月映画上映会協力、2月25日たらちね学習会を主催企画・実施しました。